



2019年11月12日

職 氏名 様  
鳥取県知事 平井 伸治様

届出者 住所 岡山県倉敷市堀南704番地5

氏名 大黒天物産株式会社  
代表取締役 大賀 昭司  
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)



鳥取県地球温暖化対策条例第8条第1項（第8条第4項、第9条第1項、第9条第3項）の規定により次のとおり提出します。

住所（主たる事業所の所在地）	岡山県倉敷市堀南704番地5				
氏名（名称及び代表者の氏名）	大黒天物産株式会社 代表取締役 大賀 昭司				
主たる業種	58 飲食料品小売業				
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 鳥取県地球温暖化対策条例施行規則第4条第3号に該当する特定事業者 <input type="checkbox"/> 特定事業者以外の事業者				
計画期間	平成31年4月 ～ 令和3年3月				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （平成30）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （令和3）年度 （二酸化炭素換算）	増減率	
	排出量（1）	7,137.6 t	6,781 t	△ 5.0 %	
	目標設定の考え方	令和元年度を基準年度とし、目標年度である令和3年度末までの3ヵ年で二酸化炭素排出量を5%削減する。			
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率
	店舗・事務所 境港店	二酸化炭素換算 延床面積	0.303 t-CO2/m2	0.288 t-CO2/m2	△ 5.0 %
	店舗・事務所 倉吉店	二酸化炭素換算 延床面積	0.261 t-CO2/m2	0.248 t-CO2/m2	△ 5.0 %
	店舗・事務所 米子西	二酸化炭素換算 延床面積	0.318 t-CO2/m2	0.302 t-CO2/m2	△ 5.0 %
	店舗・事務所 米子北	二酸化炭素換算 延床面積	0.280 t-CO2/m2	0.266 t-CO2/m2	△ 5.0 %
	店舗・事務所 鳥取店	二酸化炭素換算 延床面積	0.449 t-CO2/m2	0.426 t-CO2/m2	△ 5.0 %
	店舗・事務所 倉吉南	二酸化炭素換算 延床面積	0.262 t-CO2/m2	0.249 t-CO2/m2	△ 5.0 %
	店舗・事務所 鳥取東	二酸化炭素換算 延床面積	0.245 t-CO2/m2	0.233 t-CO2/m2	△ 5.0 %
	原単位の目標設定の考え方	照明、冷暖房など主要なエネルギー消費に密接に関わる数値は延床面積であるため、事業所ごとに二酸化炭素換算の排出量を延床面積で割った数値を原単位とする。			
寄与的取組	取組区分	目標年度（計画）			
		実数値	二酸化炭素換算の削減量		
	再生可能エネルギーの利用による電力又は熱の供給	(売電量)	kWh		t
		(熱供給量)	GJ		t
再生可能エネルギーの利用による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)		t		

	森林保全による二酸化炭素の吸収量を表すものの購入	-	-	-	t
	電気、ガスその他のエネルギーの使用の合理化による二酸化炭素の排出削減の量等を表すものの購入	(購入量)			t
	削減量等合計 (2)				0.0 t
差引排出量 (1) - (2)	基準年度 (実績)				
	7,137.6 t			目標年度 (計画)	6,780.8 t
				増減率 (計画)	△ 5.0 %
推進体制	通常の組織・会議体において推進。				
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	内容		
	令和元年度～令和3年度	全店舗	店舗改装にあたり、省エネルギー型の照明器具への取替えを実施。		
	令和元年度～令和3年度	全店舗	店舗における老朽化した冷蔵冷凍設備の更新。		
地球温暖化対策に資する社会貢献活動					
特記事項					

注1 該当する□には、レ印を記入してください。

- 2 本計画書における温室効果ガス排出量は地球温暖化対策の推進に関する法律第21条の2第3項に規定する「温室効果ガス算定排出量」の算定方法と同様の方法により算定した量をいいます。
- 3 本計画書は鳥取県内における事業活動について記載してください。
- 4 主たる業種には、統計法（平成19年法律第53号）第2条第9項に規定する統計基準として定める日本標準産業分類のうち中分類を記入してください。
- 5 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。
- 6 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
- 7 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用などを記入してください。